ＪＡ足利　営農情報 11 月号　　＜麦類の栽培ポイント＞

１　適期播種と生育管理

気象庁の寒候期予報(9 月 18 日発表)によると、播種後(12 月～2 月)の平均気温は「高い」確率 60%、降水量は「多い」確率が 50%と予想されています。高品質麦の安定生産のためには、年内の生育を十分に確保することが重要です。今後の気象予報をよく確認し、適期播種を行いましょう。

【播種期間の目安】

ビール大麦・小麦：１１月１０日～１１月２５日　　も　ち　絹　香　：１１月１０日～１１月１５日

※予報が変わる場合がありますので、最新の気象庁の予報(1 か月、3 か月、寒候期予報)も参考にして播種時期を決めましょう。近年は暖冬傾向のため、ビール大麦や小麦は播種期間の後半(11/20 頃)が播種適期になります。やむをえず適期より遅れた場合は、播種量を１～２割程度増量して穂数の確保を図りましょう。

【小麦の施肥】

近年、小麦はタンパク質含有率がやや低い傾向が続いています。基準施肥量(窒素成分 10kg～11 kg/10ａ)を参考に、令和 8 年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

①基肥には肥効調節型肥料(ＢＢ麦専用麦の香、ＢＢとちぎ麦専用 500 [注])を施用しましょう。

②オール 14 やＢＢ-372 などの速効性成分のみの基肥を施用した場合は、生育状況に応じて茎立期前（おおよそ２月下旬～３月上旬頃）か開花期頃の追肥を検討しましょう。

注)リン、カリの配合割合が低いため、土壌分析をして不足分を土作り肥料で補いましょう。

【ビール大麦の施肥】

令和 8 年産ビール大麦のタンパク質含有率測定結果は適正範囲内が 68%、許容範囲内で見ると 98.5%となりました。

令和 9 年産も引き続き適正施肥をお願いします。タンパク質含有率が低いブルーカードの方は、

①基肥でオール 14 を使用している場合は、肥効調節型肥料（ＢＢ麦専用麦の香）に変えましょう。

②肥効調節型肥料（ＢＢ麦専用麦の香）を使用してタンパク質含有率が低い場合は、施肥量を窒素成分で 1～2kg/10a (0.5 袋/10a)程度増肥しましょう。

タンパク質含有率が高いレッドカードの方は、施肥量を窒素成分で 1～2kg/10a(0.5 袋/10a)程度減肥しましょう。

【もち絹香の施肥】

総窒素量 10kg/10a 以上の多肥栽培が適しています。（肥料不足では多収性を発揮できません）

施肥例１：全量基肥	施肥例２：分施（リン、カリの不足に注意）
BB 麦専用　麦の香（14-18-14）　80kg/10a	基肥　オール１４　30kg/10a　２月追肥　尿素 9kg/10a　３月追肥　尿素 9kg/10a

注意　麦類は一般的に酸性に弱く、pH5.5 以下になると著しく減収します。特に水稲作付後のほ場では pH5.0～5.5 になることがあるため、必ず苦土炭カル等を施用して矯正しましょう(目標 pH6.5)。標準的な施用量は、苦土炭カル 60～100kg/10a です。

２　湿害対策の徹底

麦は播種期・生育期・登熟期の全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。播種後の降雨により出芽不良となる場合もありますので、十分な対策をしましょう。

湿害の影響　　播種時 → 出芽不良　　生育期 → 茎数不足、一穂粒数不足　　登熟期 → 粒充実不足

湿害防止のために以下の対策を組み合わせて実施しましょう。

（１）　排水溝（明きょ）の設置

地表の水はけを良くする対策で、播種前・播種直後が最も効果的です。

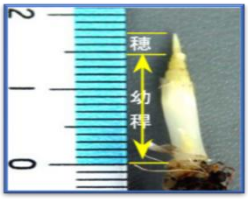
（２）　稲刈り後のスタブルカルチ等の実施や弾丸暗きょの設置により水が地下に抜けるため、排水の効果が高いです。

３　麦踏み

年内１～２回、年明け後から茎立期直前（幼稈長２㎝）までに３～４回程度実施しましょう。

根張りを良くすることや、霜などによる凍霜害防止の効果があります。

雨上がり直後や土壌水分が高いときは、圃場を踏み固めてしまい生育不良を招くので、行わないようにしましょう。



幼稈が２㎝位まで踏圧できます →

４　雑草防除

雑草の発生を抑制するため、播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

※令和８年10月５日現在の登録内容

雑草の種類	除草剤名	作物名	使用時期	
一年生雑草	ボクサー	大麦	秋播栽培のは種後～麦２葉期 （雑草発生前～発生始期）	
		小麦	秋播栽培のは種後～麦２葉期 （雑草発生前～発生始期）	※注１
			秋播栽培の麦２～４葉期 （雑草発生前～発生始期）	
	リベレーターフロアブル	大麦(秋播栽培)	は種後～麦３葉期 （雑草発生前～イネ科雑草１葉期まで）	
		小麦		
	リベレーターG	大麦(秋播栽培)	は種後～麦２葉期 （雑草発生前～イネ科雑草１葉期まで）	
		小麦(秋播栽培)		
	ムギレンジャー乳剤	大麦	秋播栽培のは種後出芽前(雑草発生前)	
		小麦		
一年生雑草(ﾂﾕｸｻ科、ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科､ｷｸ科、ｱﾌﾞﾗﾅ科を除く)	トレファノサイド乳剤	小麦	は種後出芽前～生育期（雑草発生前～雑草発生始期）但し、収穫45日前まで	
		麦類（小麦を除く）		

※ボクサー・リベレーターフロアブル・リベレーターG・ムギレンジャー乳剤は抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※同一剤を連用すると、効果が劣る雑草が増えるので、除草剤を換えましょう。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※注１）希釈水量に注意してください。

５　種子消毒の実施

近年、もち絹香で「大麦斑葉病」、小麦で「なまぐさ黒穂病」などの種子伝染性病害が増加傾向にあります。

発病後の薬剤による防除は困難です。種子消毒で予防し、健全な麦の生産に努めましょう。

※令和８年10月５日現在の登録内容

農薬名	斑葉病に登録がある作物	なまぐさ黒穂病に登録がある作物	希釈倍数、使用量	使用方法
キノンドー水和剤40	小麦	小麦	10倍	20分～1時間種子浸漬
			100倍	6～12時間種子浸漬
			乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣
キヒゲンR-2フロアブル	大麦	小麦	乾燥種子1kg当り原液20ml	塗沫処理
トリフミン水和剤	麦類	麦類	種子重量の0.5%	種子粉衣
ベンレートＴコート	大麦、小麦	大麦、小麦	乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣
ベンレートＴ水和剤20	麦類(小麦を除く)、小麦	麦類(小麦を除く)、小麦	20倍	10～20分間種子浸漬
			200倍	6～24時間種子浸漬
			7.5倍	種子吹き付け処理 (種子消毒機使用)
			乾燥種子重量の0.5%	種子粉衣
ホーマイ水和剤	麦類(小麦を除く)、小麦	麦類(小麦を除く)、小麦	種子重量の0.5～1.0%	種子粉衣
			200倍	6～24時間種子浸漬

※種子消毒の効果は、浸漬処理＞湿粉衣処理＞乾粉衣処理 の順で効果が高いとされています。

※農薬を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

◎詳しくは、ＪＡ足利営農指導員・営農相談係・TAC、安足農業振興事務所 経営普及部（TEL 0283-23-1431）にご相談下さい。